

# えんちょう通信

No.104

令和5年9月8日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

## 友だちがよろこぶのを見てよろこぶ



9月5日(火)の10ごろです。「コン コン」「ゴトン ゴトン」と、2階の遊戯室から音がします。行ってみると、年長組の男の子と女の子が二人でマルチパネという板のようなブロックでお祭りの山車(だし)を作っていました。夏休みにお祭りを見てきた男の子が、よほど楽しかったのでしょうか、そのお祭りを幼稚園で再現してみようというのです。

見ていた先生が山車を引っ張る太いひもを探してきてくれました。それを縛りつけて、立派な山車の完成です。そこに空き箱の太鼓を取りつけました。丸めた新聞紙にテープを巻いて太鼓のバチも作りしました。先生が、運動のときに使うホイッスルを貸してくれて、祭囃子の音楽も流してくれました。

「夏休みに見たお祭りをやってみたいな・・・。」という男の子の思いから始まったお祭りに、いつの間にかみんなが集まってきました。

女の子が二人、山車に近づいてきて「太鼓、やっていい？」とききます。その男の子は「いいよ。」とニコニコしながら答えて、バチを貸してあげました。

「わっしょい」「ピッピ」、 「わっしょい」「ピッピ」

みんなが交代しながら山車の綱を引っ張ります。みんな大喜びです。

集まってきた子は、誰でもみんな入れてあげます。そして仲間がどんどん増えていきます。その男の子は本当にうれしそうです。

遊びが終わって、マルチパネの山車を部屋の隅に片づけて、その子は「お祭りの(山車の)車庫みたいだ。」と言って、とても満足そうに部屋へ戻って行きました。

次の日、お祭りはどうなったかなと思って、また遊戯室に見に行ってみました。

そうしたら、昨日のその男の子が「お祭り、お祭り・・・。」と言いながら、一人で、今度は大きな積み木を並べて屋台を作っていました。またみんなが来てくれるのを楽しみに、みんなのよろこぶ顔を思い浮かべているのでしょう・・・。

すると、そこに昨日からお祭りが気になって仕方がなかった年少組の子どもたちが、遊びにやってきました。そしてまた盛大なお祭りになりました。そして、その男の子は自分たちで作った山車や屋台でみんなが楽しく遊ぶのを見て、本当にうれしそうにしています。

応援団は、選手がヒットを打つと、うれしくて応援に一層力が入ります。誰だって赤ちゃんが笑ったら、うれしくてたまらなくなります。人には、人がよろこぶのを見てよろこぶというところがあるのだと思います。自分の幸せだけでなく、ひとの幸せも大事にできたら、みんなが仲良く、楽しく過ごせるんだと、子どもたちの「お祭り」遊びを見ていて思いました。